

魚介類の核種分析結果 < 福島第一原子力発電所 20 km 圏内海域 >
2016年度 第3四半期採取分

【魚介類の Sr - 90 (半減期 約 29年) 測定結果】

(データ集約 : 3/16)

試料名 (部位)	採取場所 (地点番号)	採取日	試料濃度 (B q / k g (生)) (半減期)	
			Sr - 90 (約 29年)	参考*1 (Cs-134とCs-137 の合計)
クロソイ(全体) *3	太田川沖合 1 km 付近(T-S1)	2016年12月16日	0.066	25.8
カスザメ(全体) *2	請戸川沖合 3 km 付近(T-S3)	2016年12月16日	0.11	138
シロメバル(全体) *2	2F敷地沖合 2 km 付近(T-S7)	2016年12月12日	0.29	39.1
ババガレイ(全体) *3	2F敷地沖合 2 km 付近(T-S7)	2016年12月12日	0.37	18
カスザメ(全体) *2	熊川沖合 4 km 付近(T-S8)	2016年11月16日	0.033	51.8

基準値 (2012年4月1日以降) Cs-134、Cs-137の合計 : 100Bq/kg。

NDは検出限界未満を表し、括弧内は検出限界値。Csの検出限界値については、Cs-134、Cs-137の順に記載。

*1は可食部 (筋肉) で測定

Sr-90分析は *2 株式会社環境総合テクノス、*3 一般財団法人 九州環境管理協会にて実施。

魚介類の核種分析結果 < 福島第一原子力発電所 20 km 圏内海域 >
 2016年度 第3四半期採取分

【魚介類のトリチウム(半減期 約12年)測定結果】 採取場所(地点番号):熊川沖合4 km付近(T-S8) (データ集約: 3/16)

試料名 (部位)	採取日	トリチウム濃度 (B q / L)		トリチウム濃度 (B q / kg (生))		参考 Cs-134とCs-137の 合計 (B q / kg (生))
		組織自由水型	有機結合型	組織自由水型	有機結合型	
ヒラメ(筋肉)	2016年10月21日	0.083	ND(0.27)	0.066	ND(0.035)	ND
ヒラメ(筋肉)	2016年11月16日	0.080	ND(0.26)	0.063	ND(0.036)	4.0
ヒラメ(筋肉)	2016年12月9日	0.089	ND(0.26)	0.071	ND(0.034)	5.1

< 参考 >

	採取日	トリチウム濃度 (B q / L)
熊川沖合 4 km 付近 (T-S8) 海水	2016年10月20日	0.087
	2016年11月15日	0.075
	2016年12月8日	0.084

基準値 (2012年4月1日以降) Cs-134、Cs-137の合計: 食品 1 kg あたり 100 ベクレル

トリチウム分析は 一般財団法人 九州環境管理協会にて実施。

可食部 (筋肉) で測定

組織自由水型トリチウムとは魚の筋肉に含まれる水分に含まれるトリチウムをいい、魚が生息する海水中のトリチウム濃度と比較される。

有機結合型トリチウムとは乾燥させた魚の筋肉に含まれるトリチウムをいい、乾燥させた魚の筋肉を燃焼させたときに発生する水に含まれるトリチウム濃度をあらわす。

測定結果は有効数字 2 桁で記載。

NDは検出限界値未満を表し、括弧内は検出限界値。